

「郵便教育推進委員会」

全国の学校教育における「手紙の書き方体験授業」の推進を図るために、さまざまな協議・助言を行うことを目的として2010年4月に発足しました。

- 委員長 向山 行雄（敬愛大学名誉教授・客員教授、全国連合小学校長会顧問）
 - 副委員長 谷 和樹（玉川大学教職大学院教授、TOSS 代表）
 - 委員 明石 要一（千葉大学名誉教授）
小嶋 悠紀（一般社団法人日本教育技術学会理事）
島村雄次郎（東京都立川市立第八小学校校長）
並木 友寛（千葉県柏市立高柳小学校教諭）
小島 庸平（東京都八王子市立みなみ野小学校教諭）
吉川 たえ（埼玉県草加市立新里小学校教諭）
長谷川博之（埼玉県比企郡吉見町立吉見中学校教諭）
市川 玲名（埼玉県川越市立川越第一中学校教諭）
日戸 勇希（神奈川県立秦野曾屋高等学校教諭）
池畑 あい（日本郵便株式会社 郵便・物流事業統括部 切手・葉書室 課長）
 - 特別顧問 向山 洋一（TOSS 最高顧問）
西阪 昇（関西外国語大学客員教授）
- ※2026年4月現在（敬称略）

「手紙」や「はがき」で大切な人に自分の思いを届ける「郵便教育」が全国の多くの学校で実施されています。

全国には、「手紙文化」を大切にしたいと思っている先生方がたくさんいます。しかし、学校は様々な教育課題があり、なかなか「手紙」の実践まで手が回りません。

そんな日々忙しい先生方に、授業用「手紙の書き方テキスト」が大好評です。お申し込みの学校には、児童・生徒数分のテキストとともに、ポストに投函できる本物のはがきを進呈します。どの学校でも大変喜ばれています。

近年、自分の住所を言えない児童生徒が激増して

います。自分の住所が言えなければ、社会生活で困るだけでなく、地域社会の一員としての自覚も不十分になります。社会の変化で、子どもの手紙やはがきを出す郵便体験が不足しています。是非、日本中の多くの学校で「郵便教育」の授業が充実され、この現状を改善する一助になることを期待しています。

大切な人にはがきを書いて送り、その人から返事が返ってくるという交流の体験は、スマホ時代の子どもたちにとってもかけがえのない成長の糧になります。保護者の皆様からも感嘆と応援の声がたくさん届いています。令和8年度においても、この事業を継続して推進してまいります。是非とも多くの学校と先生方のご参加を願っています。

郵便教育推進委員会委員長 向山 行雄
（敬愛大学名誉教授・客員教授、全国連合小学校長会顧問）

自分の住所を正確に言えますか？

